

人権を大切にする活動をしている先輩から

部落問題との出会いの中で「差別を許さない生き方」を大切にしてきた城山千聡さん。「差別をする自分になりたくない」という思いから人権について学び続け、仲間と一緒に「差別を許さない生き方」の輪を広げる活動を行っていることについて、自分自身のエピソードを交えて話していただきました。



発見しよう！これからの私たち

城山さんの話を聞き生活を振り返る中で、学校でのいじめや友達関係の悩みについて自分の思いを出し合いました。またフォーラムを通して、自ら行動に移さないと何も始まらないことや、思いを言葉で伝えたり、思いを伝えてくれた仲間から自分の思いを返したりすることで、自分の気持ちに

向き合えたり、これまで気付かなかったことに気付いたりすることを確かめました。

この話し合いで出された意見を基に、人権が大切にされた学校のイメージを「ある中学校の10年後の人権活動を記した未来新聞」という形で模造紙にまとめました。



「未来新聞」をつくるために出された意見

- 「いじめを少しでもなくしたい」と思っている人たちが集まれるような集会やクラブをたくさんつくる
- 普通の授業としての人権学習に生徒だけでなく教師も一参加者として、学習・発言する場をつくる
- いじめに関するクラブまたは人権に関わるクラブを学校につくる
- 全校生徒が人権活動(サークル)に参加する
- 心と心がつながるようなレクリエーションをする
- 月1回、人権について考える場をつくる
- 正しいことを堂々と言える学校やクラスにするために、対話する時間を増やす
- どんなに小さいいじめでも学校全体で話し合う など

フォーラムを終えた中学生の感想

私は人見知りで、人と向き合うのは苦手だけど人権活動をすれば何かが変わりそうだったと思った。

ワークショップで教えてもらったことを、学校の活動に生かしていけたらいいなと思った。

いろいろな考え方の違いもあったけど、いじめや差別をなくそうとする気持ちは同じだった。

人権のことについて、こんなに深く考えたことがなくて、すごく興味深かった。

自分が思っていることを言えて良かった。悩んでいたことが解決した。

差別について知ること、気付くことが大事。知らなければ行動できない。